

目次

日本情報考古学会第40回大会 小豆島の記録.....	1
日本情報考古学会第40回大会プログラム(記録).....	4
日本情報考古学会第41回大会 青山学院大学の記録...	5
日本情報考古学会第41回大会プログラム(記録).....	6
2017年度第2回理事会議事録.....	7
2018年度第1回理事会議事録.....	7
2018年度日本情報考古学会総会報告.....	7
2018年度日本情報考古学会賞.....	8
日本情報考古学会第42回大会 岡山大学の記録.....	9
日本情報考古学会第42回大会プログラム(記録).....	10
2018年度第2回理事会議事録.....	11
臨時総会報告—学会の英語名称の変更—.....	11
MORPH 2019 開催について.....	12
2019～2021年度役員選挙について.....	12

日本情報考古学会第40回大会 小豆島の記録

2018年3月24日(土)・25日(日)の両日、日本情報考古学会第40回大会を香川県の小豆島で開催しました。大会テーマは「デジタル技術と地域貢献」。穏やかな瀬戸内の海に浮かぶ風光明媚な島を満喫しながらの大会となりました。

1日目は、川宿田好見・大会実行委員長の挨拶で始



一般講演



ポスターセッション

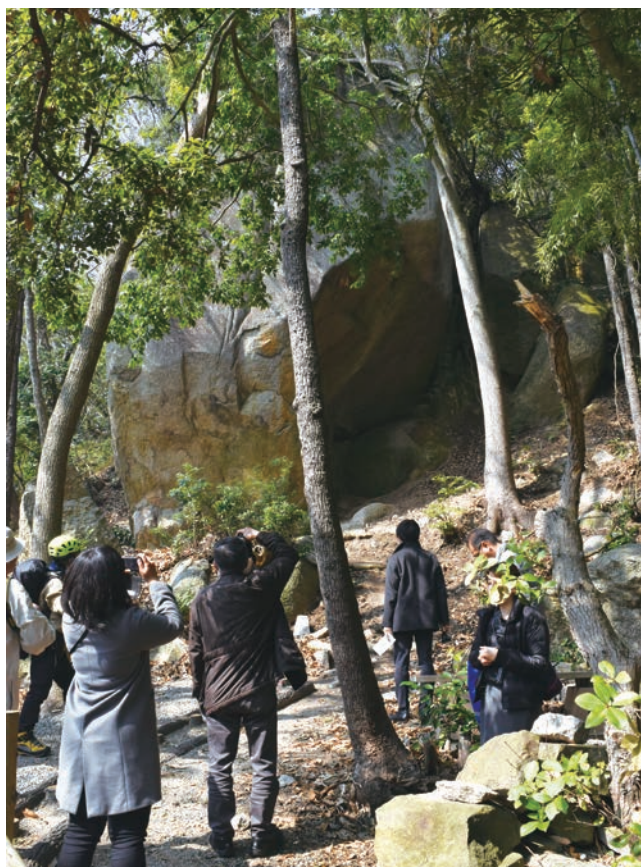
まり、一般講演の口頭発表は「デジタル記録と社会貢献」「デジタル技術の応用と考古学研究の高度化」「人類と物質文化の伝播・継承・保存」の3セッション、そしてポスターセッションがありました。

その後、及川昭文会員によるドローンの実演で楽しみました。夕刻は、「日本夕陽百選」に選ばれた国民宿舎小豆島で、きれいな夕日を見ながら懇親会。九州文化財計測支援集団で無償で文化財の3D記録の支援や普及活動に取り組まれている永見秀徳会員による簡易VRゴーグルによる遺跡体験もサプライズで飛び出すなど、盛り上がりしました。

2日目の午前中はエクスカーショ。国指定史跡 大坂城築城残石、小豆島オリーブ公園、国指定重要有形民俗文化財 池田の棧敷を回りました。現地では川宿



エクスカーション。大坂城築城残石 石丁場の現地見学



天狗岩丁場



八人石丁場。藤田精氏解説



八人石丁場



池田の棧敷



丁場へ。整備された階段を登る



特別セッション「小豆島の「石の文化」とパブリック考古学」



川宿田好見氏の講演「小豆島の「石の文化」とパブリック考古学」



対談・座談。川宿田光憲氏（左）と藤田精氏（右）

田会員と、地元の「石工さん」で文化財石垣保存技術協議会の技能講師を務められている藤田精氏に解説をしていただき、参加者は活発に質問をしたり感心したりと、充実した時間を過ごしました。

午後からは特別セッション「小豆島の「石の文化」とパブリック考古学」。川宿田会員による講演「小豆島の「石の文化」とパブリック考古学」では、児童など住民を対象として3D技術も活用しつつ推進されている先進的取り組みなどが紹介されました。続いて、小豆島町企画財政課長の川宿田光憲氏と、午前中に案



一般講演



懇親会でのサプライズ。簡易 VR ゴーグルによる遺跡体験

内いただいた藤田精氏による対談・座談があり、熱い思いのこもった素晴らしい特別セッションとなりました。その後、一般講演の4つめのセッション「デジタル記録と社会貢献—日本と海外—」を行い、無事閉会しました。

先年、京都で開催された大規模な国際会議 World Archaeological Congress-8 の際にプレッシャーで海外の考古学者が小豆島を訪れ、大好評だったとのことですが、川宿田会員をはじめ今回受け入れていただいた役場などの方々はそのときのホストを務められました。その精神とノウハウを今回の大会にも注ぎ込んでいただきました。おかげで、パブリック考古学の重要な一端に、実践の場でふれることができました。

今回の開催にあたっては、小豆島町役場の皆さまにはホスピタリティあふれる格別なご高配をいただきました。地域の活性化に対する真剣な思いと行動力に感銘を受けた参加者が多かったようです。会場の準備や送迎への心遣いまで多方面にわたる細やかなご配慮とご協力のおかげで、これまでにない形の大会となったことを深く感謝いたします。

日本情報考古学会第40回大会プログラム（記録）

日本情報考古学会第40回大会の記録として掲載します。

期日：2018年3月24日（土）・25日（日）

会場：小豆島ふるさと村（香川県小豆郡小豆島町室生）
セミナーハウス

後援：小豆島町

テーマ：「デジタル技術と地域貢献」

第1日 3月24日（土）

開会式 13:00-13:10 大会実行委員長 川宿田好見

一般講演（座長 中園 聡）

セッション1 デジタル記録と社会貢献

研究発表1 13:10-13:30

ドローン空撮による考古遺跡の可視化
及川昭文（（株）M&Sシステムズ）

研究発表2 13:30-13:50

遺跡および周辺地形の三次元計測と写真記録を考える—SfM-MVSと簡易LiDARによる実践から—
太郎良真妃（鹿児島国際大学大学院）

研究発表3 13:50-14:10

近現代考古資料としてのガラス瓶と島民の記憶—三島村黒島大里遺跡出土遺物の考古学的記録、オーラル・ヒストリー、アイデンティティの再構築—

平川ひろみ（同志社大学文化遺産情報科学調査研究センター / 鹿児島国際大学）

研究発表4 14:10-14:30

九州文化財計測支援集団の活動
永見秀徳（九州文化財計測支援集団）

一般講演（座長 川宿田好見）

セッション2 デジタル技術の応用と考古学研究の高度化

研究発表5 14:30-14:50

三次元計測とSfM/MVSを用いた横穴式石室構築技術の分析
青木 弘（公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団）、横山 真、千葉 史（株式会社ラング）

研究発表6 14:50-15:10

三次元計測の成果から土器を読み解く—微細形態・技法・製作者に関する諸情報—
中園 聡（鹿児島国際大学）

研究発表7 15:10-15:30

考古学における三次元計測・記録は何を目指すか—その公開と活用に関する批判的考察—
平川ひろみ（同志社大学文化遺産情報科学調査研究センター / 鹿児島国際大学）

一般講演（座長 川宿田好見）

セッション3 人類と物質文化の伝播・継承・保存

研究発表8 15:40-16:00（発表キャンセル）

マルコポーロと弩弓
岡安光彦（一般社団法人由比ヶ浜文化財保存修復研究所）

研究発表9 16:00-16:20

考古学から見たホモ・サピエンスの日本列島への渡来と拡散 第4報
植木 武（共立女子学園名誉教授）

研究発表10 16:20-16:40（発表キャンセル）

文化財修復は誰のものか
岩月真由子（由比ヶ浜文化財保存修復研究所）、赤塚次郎（ニワ里ねっと）、岡安光彦（由比ヶ浜文化財保存修復研究所）

ポスターセッション 16:40-17:30

研究発表11

甕棺からみる弥生時代の人口動態と集団的暴力
中川朋美（岡山大学）

研究発表12

小豆島におけるSfM-MVSによる文化財の記録と活用—小学生による実践の試み—

川宿田好見（同志社大学文化遺産情報科学調査研究センター）

研究発表13

同形態かつ異系統技法の土器をめぐる考古学的解釈の落とし穴—民族考古学と弥生土器—

平川ひろみ（同志社大学文化遺産情報科学調査研究センター / 鹿児島国際大学）、中園 聡（鹿児島国際大学）

研究発表14

SfM-MVSによる考古資料の三次元計測・記録とその「品質」に関する検討—精度・目的・問題意識—

太郎良真妃（鹿児島国際大学大学院）、中園 聡（鹿児島国際大学）

懇親会 18:00- 国民宿舎 小豆島

第2日 3月25日（日）

エクスカージョン 9:00-12:00

会場→国指定史跡 大坂城築城残石（天狗岩丁場など）→小豆島
オリーブ公園→池田の棧敷→会場

案内・解説：川宿田好見、藤田 精（雨天決行）

特別セッション 13:00-14:00

「小豆島の「石の文化」とパブリック考古学」

講演「小豆島の「石の文化」とパブリック考古学」 川宿田好見
対談・座談「石・伝統・社会・技術」川宿田光憲氏×藤田 精氏+参加者

一般講演（座長 平川ひろみ）

セッション4 デジタル記録と社会貢献—日本と海外—

研究発表15 14:00-14:20

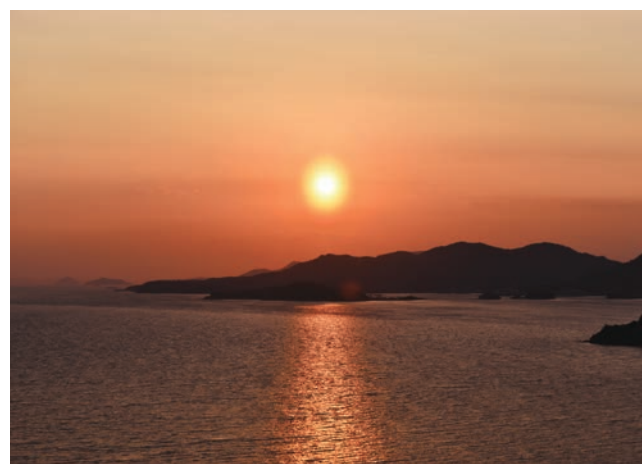
土器製作シーケンス（粘土から製品まで）の三次元記録—民族考古学的調査における製作工程—

太郎良真妃（鹿児島国際大学大学院）、平川ひろみ（同志社大学文化遺産情報科学調査研究センター / 鹿児島国際大学）、三辻利一（鹿児島国際大学）

研究発表16 14:20-14:40

中国におけるパブリック考古学の現状と課題
楊 帆（鹿児島国際大学大学院）

閉会式 14:40-14:50 会長 植木 武



懇親会会場の国民宿舎小豆島からの夕日

日本情報考古学会第41回大会 青山学院大学の記録



2018年10月13日（土）・14日（日）の両日、日本情報考古学会第41回大会を、秋の気配が感じられる青山学院大学青山キャンパスの1926年に建設された伝統ある建物を会場として開催しました。

1日目は、菅頭明日香・大会実行委員長の挨拶で幕が開き、一般講演は10件の口頭発表と4件のポスター発表がありました。ポスターセッションでは超小型ドローンの実演、Rによる石器の連続断面情報取得プログラムや、若者の遺跡の認知度についてのショッキングな発表などもあり、熱心に議論が行われていました。夕刻からの懇親会でも楽しく盛り上がりしました。

2日目は、口頭6件と、1日目に引き続きポスターセッションがありました。昼前には明治大学教授の佐々木憲一先生による「プロセス考古学と日本の古墳研究」という題名での特別講演。日本とアメリカの考古学研究上のスタンスや考え方の違いや、プロセス考古学の背景などをアメリカ留学中の経験も踏まえながらお話いただき、日本での古墳研究へのご自身の取り組みなどにも触れていただきました。ユーモア溢れる語り口に、参加者は興味深く引き込まれていました。

昼には2018年度総会を開き、それに続いて学会賞授与式が行われました。

今回の大会では、新入会員によるものを含めて幅広い分野の研究成果が発表されました。会員の皆様には、今後とも積極的にご発表いただければと思います。

開催にあたりご尽力いただいた菅頭会員、会場をご提供いただいた青山学院大学、ご後援いただいた同大学文学部史学科に深く感謝いたします。



特別講演。佐々木憲一先生「プロセス考古学と日本の古墳研究」



一般講演。会場の様子



ポスターセッション



懇親会

日本情報考古学会第41回大会プログラム（記録）

日本情報考古学会第41回大会は、以下のような日程・内容でした。記録としてプログラムを掲載します。

期日：2018年10月13日（土）・14日（日）

会場：青山学院大学 青山キャンパス（東京都渋谷区渋谷4-4-25）2号館3階232教室

後援：青山学院大学文学部史学科

第1日 10月13日（土）

開会式 13:00-13:10 大会実行委員長 菅頭明日香

一般講演（座長 山口文彦）

研究発表1 13:10-13:30

考古学から見たホモ サピエンスの日本列島への渡来と拡散 第5報

植木 武（共立女子学園名誉教授）

研究発表2 13:30-13:50

群馬県藤岡市伊勢塚古墳のSfM/MVSによる調査と分析

青木 弘（公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団）

研究発表3 13:50-14:10

尾張元興寺跡発掘調査業務における古代瓦の三次元計測

目取眞有香、安川賢太（株式会社島田組）、岡安光彦（一般社団法人由比ガ浜文化財保存修復研究所）

研究発表4 14:10-14:30

ありふれた遺物の三次元計測・記録とその意義（続報）

太郎良真妃（鹿児島国際大学大学院）、中園 聡（鹿児島国際大学）

研究発表5 14:30-14:50

3D技術を用いた考古遺物の活用について

三瓶裕司（公益財団法人かながわ考古学財団 / 九州大学大学院）

一般講演（座長 植田 真）

研究発表6 15:00-15:20

日本遺産をめぐる考古学的研究（Ⅰ）

鈴木重治（元 同志社大学）

研究発表7 15:20-15:40

弥生土器の形態および蛍光X線分析に基づいた遠隔地交渉の解釈

中園 聡（鹿児島国際大学）、平川ひろみ（同志社大学文化遺産情報科学調査研究センター / 鹿児島国際大学）、太郎良真妃（鹿児島国際大学大学院）

研究発表8 15:40-16:00

千光寺における探査研究

泉 吉紀（サレジオ工業高等専門学校）、酒井英男（富山大学）、野原大輔（砺波市教育委員会）

研究発表9 16:00-16:20

静岡県富士宮市大鹿窪遺跡における地球電磁気学的研究

菅頭明日香（青山学院大学）、酒井英男（富山大学）、永田悠記（富士宮市教育委員会）

研究発表10 16:20-16:40

青銅の磁化研究の試み

酒井英男（富山大学理学部）、菅頭明日香（青山学院大学文学部）、長柄毅一（富山大学芸文学部）

ポスターセッション 16:40-17:30

懇親会 18:00-

第2日 10月14日（日）

一般講演（座長 山口文彦）

研究発表11 10:00-10:20

前方後円墳施工における基準点の標高と段築一五社神古墳の築造規格から—

西村 淳（函館大学）

研究発表12 10:20-10:40

礎石建物における遺構からの柱位置推定

河嶋優輝（筑波大学大学院）

研究発表13 10:40-11:00

土器胎土構造の二次元的・三次元的可視化と製作技法—蛍光樹脂含浸法・画像処理・X線CT—

中園 聡（鹿児島国際大学）、太郎良真妃（同大学院）、平川ひろみ（同志社大学文化遺産情報科学調査研究センター / 鹿児島国際大学）

特別講演 11:00-12:00

プロセス考古学と日本の古墳研究

佐々木憲一 先生（明治大学文学部教授）

総会、学会賞授与式 12:00-12:30

ポスターセッション 13:00-14:00

一般講演（座長 泉 吉紀）

研究発表14 14:10-14:30

弥生時代北部九州における受傷者の社会的地位

中川朋美（岡山大学大学院社会文化科学研究科）

研究発表15 14:30-14:50

造山・作山古墳と周辺古墳の埴輪の蛍光X線分析

平川ひろみ（同志社大学文化遺産情報科学調査研究センター / 鹿児島国際大学）、中園 聡（鹿児島国際大学）、太郎良真妃、若松花帆（同大学院）、春成秀爾（国立歴史民俗博物館）

研究発表16 14:50-15:10

中国東北地区遼西地域の白音長汗遺跡における土器の編年分析

楊 帆（鹿児島国際大学大学院）

閉会式 15:10-15:20

ポスターセッション

研究発表17

3D計測データにもとづく後期旧石器時代石刃石器群の解析（Ⅰ）—考古学資料と実験製作資料をつなぐための多属性の検討—

野口 淳（NPO 南アジア文化遺産センター / 奈良文化財研究所）、千葉 史、横山 真（㈱ラング）、渡邊 玲（早稲田大学大学院）、佐藤祐輔（仙台市縄文の森広場）、神田和彦（秋田市文化振興課）、小菅将夫（岩宿博物館）

研究発表18

3D計測データにもとづく後期旧石器時代石刃石器群の解析（Ⅱ）—R言語による連続断面情報取得プログラムの構築と応用—

千葉 史（㈱ラング）、野口 淳（NPO 南アジア文化遺産センター / 奈良文化財研究所）、横山 真（㈱ラング）、渡邊 玲（早稲田大学大学院）、佐藤祐輔（仙台市縄文の森広場）、神田和彦（秋田市文化振興課）、小菅将夫（岩宿博物館）

研究発表19

ドローンによる西北九州地域の古墳・山城の空中撮影—3D化によるアーカイブ構築を目指して—

堀江 潔、眞部広紀（佐世保工業高等専門学校一般科目）、岡本 渉（名古屋大学宇宙地球環境研究所）

研究発表20

若者の遺跡に関する認知度をめぐって

若松花帆（鹿児島国際大学大学院）、石原茉奈、遠矢大士（鹿児島国際大学）

2017 年度第 2 回理事会議事録

日 時：2018 年 3 月 24 日（土）10:00 ～ 12:00

場 所：小豆島ふるさと村

出席者：植木武（議長）、及川昭文、川宿田好見、中園聡、平川ひろみ

1. 報告

1. 2017 年度活動報告

事務局より主な活動として、次の報告があった。
会員情報の確認（4 月）。学会誌第 23 巻、会報 No.40 を発行した。理事会を 2 回開催した。第 39 回大会 & 第 2 回雄山閣百周年記念シンポジウム「3D 技術と考古学」（10 月 28・29 日 明治大学）、第 40 回大会（3 月 24・25 日 小豆島ふるさと村）を実施し、総会（10 月 29 日）を開催するなどした。

2. 会員動向について

事務局より 2017 年度は退会者が 5 名、新規入会者が 7 名であったことが報告された。

3. 学会誌編集委員会報告

『情報考古学』第 23 巻 1・2 合併号が 2018 年 3 月中に会員に配布されることが報告された。

2. 審議事項

1. 2018 年度の活動および予算方針について

事務局より 2017 年度の実績をもとに 2018 年度の活動・仮予算案が提示され、承認された。

2. 学会誌のあり方について

査読規定、執筆要項の整備、査読の迅速化について議論された。また、学会誌の電子化に関しても実現に向けての取り組みについての検討がなされた。

3. 学会の英語名称について

理事に英語名称変更に関するアンケートをとり、名称案を決定させて総会で審議にかけることが議論された。

4. その他

大会について意見が出され、発表時間、大会開催地・日程、大会実行委員会、開催形態についての議論がされた。また、理事に大会開催地の候補をアンケートで募ることとなった。

2018 年度第 1 回理事会議事録

日 時：2018 年 10 月 13 日（土）10:00 ～ 11:45

場 所：青山学院大学

出席者：植木武（議長）、及川昭文、菅頭明日香、酒井英男、鈴木重治、千葉史、中園聡、平川ひろみ、三瓶裕司（理事）、山口文彦（監事）

1. 報告

1. 会員動向について

事務局より入退会の現状について報告された。新規入退会者はほぼ同数で、若手の会員増がある。

2. 学会誌編集委員会報告

『情報考古学』の投稿状況について報告された。

2. 審議事項

1. 2017 年度会計報告（案）について

監査済みの会計報告案が提示され承認された。

2. 2018 年度予算（案）について

事務局より提案と説明があり承認された。

3. 学会賞の選考について

2018 年度の授賞対象が決定された。日本情報考古学会賞 1 件、論文賞 1 件、堅田賞（優秀賞）2 件。

4. 日本情報考古学会 2018 年度総会について

総会の議題・報告の内容が確認された。

5. 学会の英語名称について

再度、英語名称案について議論。これまでの意見をもとに、ワーキンググループを設置してさらに検討を進め、早期の決定を目指すことになった。

6. 学会誌のあり方について

査読規定の公表、投稿数の問題、オープンアクセス化について再度議論された。

7. その他

会員の研究会活動等を後援するなどバックアップの可能性、役員選挙の実施日程等が話し合われた。

2018 年度日本情報考古学会総会報告

2018 年 10 月 14 日青山学院大学で開かれた総会は、今野晃市会員が議長に選出され審議・報告がなされた。

議題

1. 2017 年度会計報告について

適切であった旨の会計監査報告があり、承認。

2. 2018 年度予算案について

事務局より説明があり、下記のとおり承認。

報告

1. 2017 年度活動報告

事務局より大会開催など主な活動が報告された。

日本情報考古学会平成 29 年度決算報告書

収入		支出	
繰越金	1,216,992	情報考古学第 23 巻 1・2 号印刷費	97,848
会費	874,000	第 39 回大会講演論文集印刷費	76,658
大会参加費	142,000	第 40 回大会講演論文集印刷費	27,019
懇親会費	171,000	会報 No.40 印刷費	21,270
ブース展示 出展料	10,000	学会賞トロフィー代	7,822
冊子売上	216,066	会議費	18,184
利息	1	懇親会費	245,000
		講師謝金	250,000
		第 39 回大会開催費 (会場費)	69,120
		第 40 回大会開催費 (会場費等)	29,222
		事務局維持費 (含アルバイト代、消耗品費)	236,347
		振込等手数料	27,658
		送料	155,799
合計	2,630,059	合計	1,261,947
		次年度繰越金	1,368,112

日本情報考古学会平成 30 年度予算

収入		支出	
繰越金	1,368,112	情報考古学第 24 巻 1 号印刷費	100,000
会費	672,000	情報考古学第 24 巻 2 号印刷費	100,000
大会参加費	150,000	第 41 回大会講演論文集印刷費	60,000
懇親会費	220,000	第 42 回大会講演論文集印刷費	60,000
ブース展示 出展料	20,000	会報 No.41 印刷費	9,000
冊子売上	120,000	会報 No.42 印刷費	18,000
		会員名簿印刷費	16,000
		学会賞トロフィー代	11,500
		会議費	20,000
		懇親会費	200,000
		講師謝金	90,000
		大会会場費	60,000
		事務局維持費 (含アルバイト代、消耗品費)	230,000
		振込等手数料	4,000
		送料	180,000
合計	2,550,112	合計	1,158,500
		次年度繰越金	1,391,612

2018 年度日本情報考古学会賞

2018 年度の学会賞が決定しました。第 41 回大会において、2018 年 10 月 14 日、授与式が開かれ、植木会長より表彰状と記念の盾が送られました。

受賞者は次のとおりです。学会賞 1 件、論文賞 1 件、堅田賞（優秀賞）2 件の計 4 件でした。今後ますます

のご発展を祈念いたします。

日本情報考古学会賞 中園 聡

論文賞 太郎良真妃「土器様式の空間的検討―須玖式土器における東西の様式的地域差―」（『情報考古学』 Vol.23 No.1・2, 2018）

堅田賞（優秀賞）酒井英男、泉 吉紀「特別天然記念物である古代の魚津埋没林の探査と掘削による新たな発見」（『情報考古学』 Vol.23 No.1・2, 2018 の業績）

堅田賞（優秀賞）宇佐美智之「佐賀平野の弥生時代における集落分布変化とその評価」（『情報考古学』 Vol.23 No.1・2, 2018 の業績）



日本情報考古学会賞。左は中園氏、右は植木会長



論文賞。太郎良氏



堅田賞（優秀賞）。左より酒井氏、泉氏

日本情報考古学会第42回大会 岡山大学の記録



2019年3月23日（土）・24日（日）の両日、日本情報考古学会第42回大会を岡山大学で開催し、盛況のうちに無事終了しました。

岡山で大会を開催するのは、本学会として初めてのことでした。今回、考古学研究の日本における拠点の一つで、以前からデジタル考古学にも取り組まれてきた岡山大学考古学研究室にご協力いただき、同大学院社会文化科学研究科附属文明動態学研究センターにはご後援をいただきました。松本直子教授にはご多忙のなか開催をお引き受け頂き、今大会の実現となりました。

1日目は一般講演の口頭発表9件のあと、「人類の拡散とニッチ構築」という題で松本先生に特別講演をしていただきました。ホモ・サピエンスはなぜ世界に拡散したかというのは大きな謎ですが、人・物・環境の相互作用や共進化といった視点をもって認知考古学をはじめ様々な科学的領域から迫り、人間の本质にも肉薄しようとする壮大な研究についての刺激的なご講演でした。

終了後、夕刻より大学内のレストランに移動して、懇親会を行いました。お元気で土器の胎土分析に精力的に取り組まれている三辻利一会員による乾杯の音頭の後、参加者は岡山大学名物の清酒・焼酎「おお岡大」などで親睦を深めました。

2日目は、口頭発表が8件とポスター発表が3件ありました。今回は昼前に臨時総会を行いました。昼食時間の休憩時には考古資料展示室を特別に開けてい



特別講演。松本直子先生「人類の拡散とニッチ構築」



一般講演

ただき、見学させていただきました。

近年は若手の発表や新入会員の発表が目立ちますが、今回はさらに際立ったようです。中国からの留学生も2人がそれぞれ発表をしました。一方、ご高齢の先生方（失礼ながら）も情熱的な発表をされていました。このように、世代や国籍を超えた発表が印象的でした。

今回の開催にあたっては、松本先生をはじめ考古学研究室の学生の方々にはお手伝いいただくなど、大変お世話になりました。ご協力頂いた皆様に深く感謝申し上げます。



懇親会



一般講演。会場の様子



ポスターセッション



岡山大学 考古資料展示室の見学の様子

日本情報考古学会第42回大会プログラム（記録）

期日：2019年3月23日（土）・24日（日）

会場：岡山大学 津島キャンパス（岡山県岡山市北区
津島中3-1-1） 文法経講義棟1階14番講義室

後援：岡山大学大学院社会文化科学研究科附属文明動態学研究センター

第1日 3月23日（土）

開会式 13:00-13:10 大会実行委員長 松本直子

一般講演（座長 山口文彦）

研究発表1 13:10-13:30

日本遺産をめぐる考古学的研究（Ⅱ）—考古学的評価と課題—
鈴木重治（日本情報考古学会）

研究発表2 13:30-13:50

岡山後楽園所在の「大立石」について（第2報）

三瓶裕司（公益財団法人かながわ考古学財団／九州大学大学院）、
万城あき（岡山県郷土文化財団）

研究発表3 13:50-14:10

階層化された情報システムのためのくずし字解読機能の試作
未代誠仁（桜美林大学）、リー・トゥアン・ナム、グエン・コング・
カー、中川正樹（東京農工大学）、山本和明（国文学研究資料館）

研究発表4 14:10-14:30

石造遺物調査における光拓本技術の提案と評価
上相英之（国文学研究資料館）

一般講演（座長 佐藤宏介）

研究発表5 14:40-15:00

発掘調査現場におけるSfM-MVSの試験的活用と実践

目取眞有香、安川賢太（株式会社島田組文化財事業本部）

研究発表6 15:00-15:20

ありふれた土器片への3D計測・記録の適用

太郎良真妃（鹿児島国際大学大学院）

研究発表7 15:20-15:40

押型文土器の3D計測と観察

田中祐紀（高原町教育委員会）、中園 聡（鹿児島国際大学）、太
郎良真妃（鹿児島国際大学大学院）、平川ひろみ（鹿児島国際大学）

研究発表8 15:40-16:00

石器形態情報の要約方法—3D計測データ解析のために—
野口 淳（NPO 南アジア文化遺産センター）

研究発表9 16:00-16:20

単純な土器形態を記述する—北部九州弥生時代中期の器台の形態分析—
平川ひろみ、中園 聡（鹿児島国際大学）

特別講演 16:30-17:30

人類の拡散とニッチ構築

松本直子 先生（岡山大学大学院社会文化科学研究科 教授／同研
究科附属文明動態学研究センター 副センター長）

懇親会 18:00- 岡山大学内 ピーチユニオン4階レストラン

第2日 3月24日（日）

一般講演（座長 中園 聡）

研究発表10 10:00-10:20

前方後円墳の築造規格の継承と変容—五色塚古墳に関する考察—
西村 淳（函館大学）

研究発表11 10:20-10:40

「弓馬の道」と文明の生態史観

岡安光彦（一般社団法人PULUSULTRA）

研究発表12 10:40-11:00

不均質系の分析化学—土器遺物の産地問題の研究における分析化学—

三辻利一（鹿児島国際大学客員教授）

研究発表 13 11:00-11:20

蛍光 X 線分析法による須恵器・埴輪の考古科学的研究

三辻利一（鹿児島国際大学客員教授）

臨時総会 11:20-

ポスターセッション 12:40-13:30

一般講演（座長 廣田吉三郎）

研究発表 14 13:30-13:50

インタラクティブな遺物分布図の開発と利用—Processing を利用した多属性情報の効果的な表示方法—

野口 淳（NPO 南アジア文化遺産センター）、千葉 史、横山 真（(株) ラング）

研究発表 15 13:50-14:10

土器における粘土帯接合法と身体技法の関係についての試論

平川ひろみ、中園 聡（鹿児島国際大学）

研究発表 16 14:10-14:30

南九州における弥生時代墳墓・墓地の実態—中期を中心として—
若松花帆（鹿児島国際大学大学院）

研究発表 17 14:30-14:50

中国考古学における欧米考古学の影響とその現状

楊 帆（鹿児島国際大学大学院）

閉会式 14:50-15:00

ポスターセッション

研究発表 18（発表キャンセル）

研究発表 19

縄文時代の受傷と暴力のパターン

中川朋美（岡山大学）

研究発表 20

A Study of Interactive Matching Interface for Fractured Stone Tools

林 天放、今野晃市（岩手大学）

研究発表 21

土器における同一製作者「個人」の高精度同定法の研究とその展開

中園 聡、平川ひろみ（鹿児島国際大学）、太郎良真妃（鹿児島国際大学大学院）

▼第 42 回大会の発表に密接に関わる短論文を収録した『講演論文集』Vol.22 は残部僅少です。事務局までメールでお申込みを。

2018 年度第 2 回理事会議事録

日 時：2019 年 3 月 23 日（土）10:00 ～ 11:48

場 所：岡山大学

出席者：植木武（議長）、佐藤宏介、岡安光彦、鈴木重治、中園聡、西村淳、野口淳、平川ひろみ、廣田吉三郎、三瓶裕司、三辻利一（理事）、山口文彦（監事）

1. 報告

1. 2018 年度活動報告

事務局より大会・後援等の活動報告がなされた。

2. 会員動向について

事務局より入退会の現況について報告された。新規入退会者はほぼ同数で、若手は増加している。

3. 学会誌編集委員会報告

『情報考古学』の投稿状況について報告された。

2. 審議事項

1. 2019 年度の活動および予算方針について

実績に基づく仮予算案が承認された。国際会議

MORPH 2019 の共催とその経費支出も承認。

2. 次期役員（理事・監事）について

選挙管理委員長の報告を受け、当選を確認した。

3. 学会の英語名称について

ワーキンググループの答申（報告）に基づき、会長より説明、新名称が承認された。

4. 学会誌および講演論文集に関する規程等について

問題点とこれからの課題について議論された。

5. その他

大会発表での査読体制、会員名簿の整備等を議論。

臨時総会報告—学会の英語名称の変更—

ご案内しました臨時総会は 2019 年 3 月 24 日に開催し、本学会の英語名称の変更とそれに伴う会則改正を審議しました。事務局による経緯等の説明、植木会長による提案趣旨の説明、審議の結果、賛成多数で同日をもって改正・施行することになりました。

旧 Japan Society for Archaeological Information

新 Japan Association for Archaeoinformatics

日本情報考古学会会則は、次のように変更します。

旧 1. 本会は、日本情報考古学会（Japan Society for Archaeological Information）と称する。

新 1. 本会は、日本情報考古学会（Japan Association for Archaeoinformatics）と称する。

略称も「JSAI」から「JAAI」に変更。

なお、今回の英語名称の改正は以下のような経緯と理由によります。従来の Archaeological Information では漠然としており、考古学のニュース等の意味合いも含むため誤解の恐れがある、海外の研究者にわかりやすくする必要があるなどの意見が内外から挙がっていました。会報でお知らせしてきたように、これについては植木会長が重視し、会長提案として英語名称の変更が理事会でたびたび議論され、改正の必要は了解されていましたが名称を絞りこむには至りませんでした。そこでワーキンググループを設置し、山口文彦監事を中心に中堅・若手の理事が集中的に検討した結果、上記具体案が答申され、理事会での承認を経て臨時総会での提案となった次第です。Archaeoinformatics は十分には定着していない新しい用語といえますが、本学会の性格・あり方を簡潔に表し、欧米の大学や研究で使用がみられます。もちろん学会のあり方は用語に縛られるものではなく、名称変更によって学会としての活動内容を変更するものではないことはいうまでもないことを申し添えます。

そのほか、臨時総会では本学会が共催する国際会議 MORPH 2019 の告知をしました（次項参照）。

国際会議 MORPH 2019 の開催について



CC-BY 4.0 International: MORPH 2019 Sendai LOC



CC-BY 4.0 International: MORPH 2019 Sendai LOC

MORPH 2019 第4回 考古学・人類学のための形態測定学国際会議 仙台大会 The 4th Conference on the Archaeological and Anthropological Application of Morphometrics

考古学・人類学においては、研究の対象資料（土器・石器・人骨等）の〈かたち〉はもともと基礎的な検討課題です。形態研究の定量化、数理統計解析は、主観的・記述的な研究から、客観性・再現性が担保された科学として考古学・人類学が発展していくために、きわめて重要なテーマとなっています。とくに生物学を中心に発展してきた形態測定学の応用は、1990年代後半にヨーロッパ・アメリカを中心に提起されてきました。今回開催する「考古学・人類学のための形態測定学国際会議」は、そうした機運を背景に各国の若手研究者を中心に組織されたものです。従来の学会、国際会議と同様、基調講演と研究発表を通じて最新の技術・方法論とそれにもとづく研究成果を発表、議論するだけでなく、ワークショップを通じて技術の習得・共有を図ってきたことも特色です。

これまで過去3回の大会は、すべてヨーロッパで開催されてきました。考古学・人類学における形態測定学のさらなる発展と普及を考える立場からは、ヨーロッパ以外での開催が模索されてきました。そのような中、第3回大会に参加した日本人研究者と大会組織の中核メンバーとの間で次回大会の日本開催の可能性が議論されてきました。今回、日本側における実行委員会の組織、受け入れ態勢が確立されたことを受けて、開催に至りました。

国際会議 MORPH 2019 Sendai が日本で開催されます。本学会はこの国際会議を共催することになりました。本学会でも設立以来、考古資料等の形態計測に関する様々な研究が行われ、その推進の一翼を担ってきましたが、近年の形態測定学の展開と考古学・人類学分野への適用は目覚ましいものがあります。どうぞご注目ください。

また、学会の存在や日本での研究が海外に広く認知される機会でもあります。会員の皆様には、ご自身の研究発表はもちろん、研究の国際交流、ワークショップ（ハンズオン）を通じた技術習得など多くのメリットがあることと存じますので、ご登録・ご参加をおすすめいたします。

本学会でも今後、HP・メール等で本件のお知らせをしていきますが、詳しくは下記サイトをご覧ください。

期間 2019年9月13日（金）～15日（日）

9/13 受付、ワークショップ#01、アイスブレイカー 9/14 ワークショップ#02、基調講演、懇親会
9/15 研究発表、ポスター発表

会場 東北大学 知の館(TOKYO ELECTRON House of Creativity 仙台市 東北大学片平キャンパス)

共催 東北大学学際科学フロンティア研究所、東北大学文学研究科考古学研究室、東北大学研究推進・支援機構 知の創出センター、日本情報考古学会

MORPH 2019 Sendai ウェブサイト <https://morph2019.wordpress.com>



2019～2021 年度役員選挙結果について

時期役員（理事・監事）の投票は、2019年3月1日消印有効で投票（郵送）を締め切り、選挙管理委員会による開票の結果、投票総数 59 通、有効 58 通、無効 1 通でした。選挙管理委員会の報告に基づき 2019 年度第 2 回理事で 21 人、監事 2 人の当選を確認しました。選挙へのご協力、ありがとうございました。

就任の意思確認後、新理事により会長を選出します。現在早急に作業を進めており、近く結果を公表する見込みですが、それまでは暫定的に前役員が会務に携わります。新役員の構成は次号にも掲載しますが、決定後すみやかに学会 HP とメール（登録済の方）でお知らせしますので、ご確認ください。

▼大会での皆様の積極的な研究発表、学会誌への投稿を期待しております。

▼所属・連絡先等が変わられた場合は、その都度メールか郵便で、事務局まで必ずお知らせください。

本学会は下記の賛助会員よりご支援いただいています。

株式会社 四門 株式会社 CUBIC ほか

日本情報考古学会会報 No.41

2019年3月31日

発行 日本情報考古学会事務局

〒891-0197 鹿児島市坂之上8丁目34-1

鹿児島国際大学中園聡研究室内

E-mail: archaeoinfoiuk@gmail.com

<http://www.archaeo-info.org/>